



かえで通信

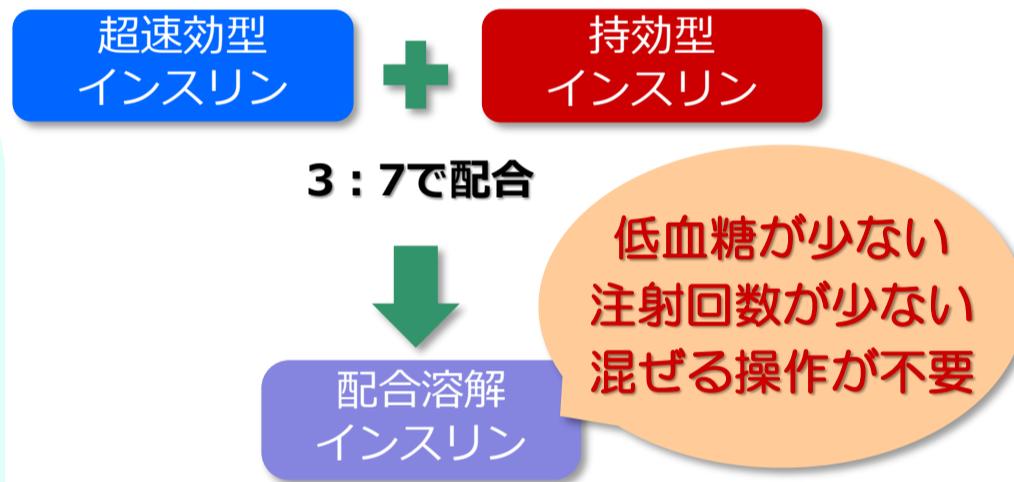
●新しいインスリン製剤● 薬剤部 大谷

超速効型インスリンと持効型インスリンを配合した初めてのインスリン製剤

世界で初めて1本のペン型インスリン製剤に2種類の異なるインスリンアナログ製剤を配合した配合溶解インスリン製剤が発売されました。特徴は食後の追加分泌を補充する超速効型インスリンと24時間基礎分泌を補充する持効型インスリンを3:7の割合で配合していることです。超速効型インスリンの有効成分により、食事摂取時に速やかな血糖降下作用を示します。また持効型インスリンの有効成分により、長時間にわたる平坦で安定した血糖降下作用を示します。配合溶解インスリンは、1日1回の注射から治療を始められ、インスリン療法で基礎分泌と追加分泌の両方を補う必要がある糖尿病の方や、中間型や持効型インスリンで治療しており追加分泌を補う必要のある患者さんには、よりシンプルな治療による血糖改善が期待できます。

配合溶解インスリン製剤の特徴

従来より使用されている混合型インスリン製剤は、超速効型あるいは速効型の追加インスリンに中間型インスリンを加えた白色の懸濁製剤です。そのため、使用時には十分に混ぜる操作と均一的に混ざっているかの確認を行う必要がありました。混ざり具合が不十分な場合、期待される効果が得られないため、低血糖の発現あるいは高血糖を惹起して血糖変動を悪化させる可能性があります。混合型インスリン製剤を使用する際には、注入器を手のひらにはさんで10回以上水平に転がす、さらに10回以上上下に振るといった操作を行い、注射液を均一に混ぜた後、自己注射を行っています。しかし常に適切に混ぜる操作を行えるとは限りません。その点配合溶解インスリンは、超速効型インスリンと基礎分泌を補充する持効型インスリンを配合したインスリン製剤ですので、均一に混ぜる操作が不要で、なおかつ簡便に注射でき、患者さんの状態に応じて投与回数も1日1回から2回へ変更が可能となっています。



今後の糖尿病薬の展開

- 1. 持効型インスリンとGLP-1受容体作動薬の配合注射剤**
 国内初の製剤（但し当院では未採用）
- 2. 超速効型インスリン製剤**
 0.5単位きざみで注射可能（販売承認取得）
- 3. 低血糖時救急治療薬：点鼻グルカゴン粉末剤**
 重症低血糖のリスクを抱える糖尿病患者さんが、安心して日々の生活を過ごせる事を目指して開発された製剤（今月発売予定）

糖尿病治療薬の開発は日々進んでいて新薬が次々発売されています。医師や薬剤師と相談しながら、生活習慣改善を第一に、ご自分の症状や生活スタイルに合った糖尿病薬を服用するようにしましょう。